BUSINESS REPORT

株主の皆さまへ　第107期 報告書

2016年12月1日から2017年11月30日まで

キーワードで知る津田駒

P7 生誕140年

津田駒工業株式会社

株主の皆さまへ

代表取締役会長　菱沼捷二（右）
代表取締役社長　高納伸宏（左）

2018−2020 スローガン

トップを目指せ
強い津田駒 新たな挑戦

連結業績ハイライト

受注高	経常利益
42,799百万円 （前期36,256百万円）	356百万円 （前期584百万円）
売上高	**親会社株主に帰属する当期純利益**
39,686百万円 （前期38,870百万円）	183百万円 （前期437百万円）
営業利益	**1株当たり当期純利益**
622百万円 （前期728百万円）	2.87円 （前期6.85円）

第107期報告書をお届けするにあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。当年度中も各地で豪雨や地震、大雪等の自然災害が発生いたしました。被害にあわれました皆さまには、心よりお見舞いを申し上げます。

Q 2017年度の業績は？

A **売上高39,686百万円、営業利益622百万円と2期連続で黒字を確保しましたが、復配には至りませんでした。**

2017年度の決算は、受注高は42,799百万円で前期比18.0%増加と大きく伸びました。売上高は、繊維機械事業においてインド案件のL/C（信用状）開設遅れの影響もあり39,686百万円（前期比2.1%増加）の微増にとどまりました。一方、損益面では、第1四半期の落ち込みの影響から、営業利益は622百万円（前期比14.5%減少）となりました。また、営業外費用（持分法による投資損失）として中国合弁会社（経緯津田駒紡織機械（咸陽）有限公司）での固定資産の減損損失を含む297百万円の損失を計上いたしましたため、経常利益は356百万円（前期比39.0%減少）、親会社株主に帰属する当期純利益は183百万円（同比58.1%減少）となりました。

期末配当金につきましては、配当原資を確保するに至らず、株主の皆さまには誠に申し訳ございませんが、引き続き無配とさせていただきたく存じます。

Q 復配の見通しは？

A **早期復配に向けて環境を整えています。**

2018年2月23日に開催されました第107回定時株主総会において、資本準備金の取り崩しによる欠損填補の議案をご承認いただきました。これにより、復配に向けた一つの環境は整備できました。今後の業績、市場環境等を総合的に勘案して、できるだけ早期の復配を検討してまいりたいと存じます。

Q インドや中国で経済改革が進んでいますが、当社への影響は？

A **制度改革に伴う影響はありましたが、プラスに働く改革が進んでいると考えています。**

インドでは継続的な経済成長を図るための様々な制度改革が進められています。繊維機械事業で

インドで需要が高いZAX9200i型エアジェットルーム

は、インド市場は引き続き設備投資意欲が高く、商談は活発に進んでいます。ただ、その実行過程における銀行業務の混乱等から、一時的ではありますが、当社もその影響を受けざるを得ませんでした。例えば、第１四半期は2016年11月の高額紙幣廃止による混乱から業績が落ち込みました。また、2017年7月には、GSTと呼ばれる新税制（物品・サービス税）の導入の影響から、同10月頃までL/C（信用状）の開設が停滞いたしました。しかし、いずれもインド経済の発展には必要な制度改革ですので、今後の成長に期待が持てると思います。

中国市場では様々な環境規制が進められています。ウォータジェットルームが多数導入されている地区では、排水規制が強化され、排水基準を満たさない繊維工場の強制的な操業停止や、過剰設備の整理が進みました。このため優良な企業には織物の注文が増加し、設備増強のために当社ウォータジェットルームの需要が回復してまいりました。当社の中国子会社であります津田駒機械製造（常熟）有限公司でも受注が増加いたしました。また、エアジェットルームについては、高付加価値織物の需要が増えております。こうしたことから、市場全体で設備投資は回復の傾向を強めていると感じています。

また、台湾市場では、台湾企業の積極的な国外投資が進み、受注・売上に結びつきました。また、中国国内の経済成長に伴い、中国市場に向けた製品提供を狙うバングラデシュやインドネシア、ベトナムなどの周辺国市場への販売促進を図りました。

Q 工作機械関連事業の状況は？

A 新製品の販売促進と生産の効率化を積極的に進めました。

工作機械関連事業では、国内や米国、中国などの自動車業界の積極的な設備投資や、中国の製造業全体で進められた加工設備の自動化、高度化のための設備投資、さらに米国の製造業の活性化などの需要に支えられて、高水準の受注と生産が続きました。

当社では、高速・高精度を実現した新製品の

多数の来場者で賑わった国内工作機械展示会

ボールドライブ駆動NC円テーブルをエンジン部品の加工用装置として採用いただき、継続的に納入いたしました。また、全社を挙げての生産応援と効率化活動を進めるとともに、設備投資を伴う生産能力の拡大に取り組みました。設計部門では、汎用NC円テーブルの設計のプラットホーム化を進めました。

また、事業の拡大を図るため設置しております新製品推進室で進めている航空機部品の加工は徐々に部品点数を増やしております。

Q ロボット関係の事業に着手したそうですが？

A ロボットと自動搬送を合体した総合システムを提案していきます。

新しい取り組みとして、2018年1月から、ロボットシステムインテグレーション事業（TRI=Tsudakoma Robotic Integration）に着手しました。人手不足が深刻化する製造業界では、生産の効率化のためのロボットの活用が進むと予想されます。一方で、そのための専門人材も必要になりますが、企業規模によっては人材の確保が困難な場合があります。当社は、そうした企業の需要に応えるため、当社の高度なNC円テーブル・機械加工・治具設計の技術や搬送装置・制御装置の技術等を総合的に活かして、お客さまのロボットや自動搬送設備の導入に伴う様々なシステム設計を、ワンストップで、総合的にご提供する事業を立ち上げました。それにより、お客さまのロボット自動搬送システム導入を容易にするとともに、ロボット導入効果を最大化するサポートを行ってまいります。

Q 新しい中期経営計画を策定されました。

A 「トップを目指せ　強い津田駒　新たな挑戦」というスローガンで始動しました。

新たに2018年～2020年の3カ年計画「中期経営計画2020」を策定いたしました。圧倒的な性能・技術を有する新製品開発、既存事業における市場とシェアの拡大、コア技術を活かした新規事業の拡大などを骨子としています。「トップを目指せ　強い津田駒　新たな挑戦」というスローガンを掲げて、全社で活動をスタートしています。

当社の力となるのは、業界NO.1を目指すことができる技術力にあると思います。たとえば、世界最高のジェットルームのスピードや汎用性、ボールドライブ駆動で実証されたNC円テーブルの精度や回転速度、わが国唯一のコンポジット機械など、ユニークかつ高度な技術力を持っています。

これらを磨き、さらに新しい挑戦を続けていくことが、今後とも長く当社が市場で認められるために必要なポイントであると考えています。

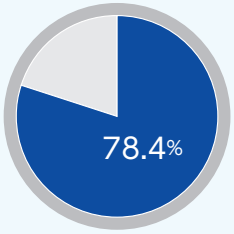
TRIによる社内加工設備

事業別の状況

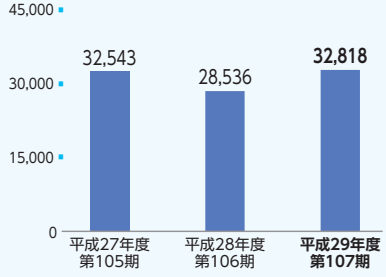
繊維機械事業

受注高	32,818 百万円	（前期比15.0％増加）
売上高	31,100 百万円	（前期比0.2％減少）
営業利益	994 百万円	（前期比17.2％減少）

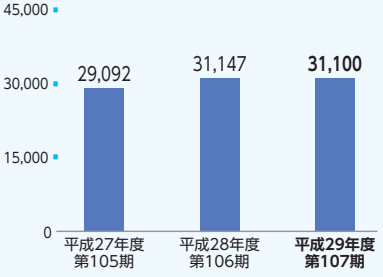
売上高構成比



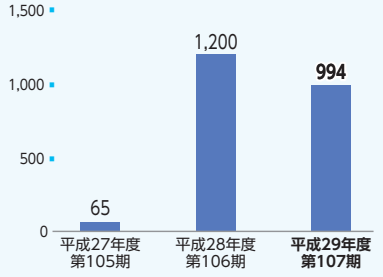
受注高 （単位：百万円）



売上高 （単位：百万円）



営業利益 （単位：百万円）



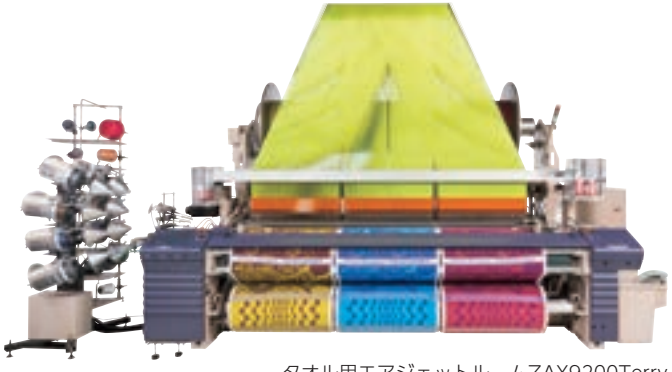
ツダコマの主な製品

繊維機械

エアジェットルーム・ウォータジェットルーム

水や空気の噴射力を使ってヨコ糸を織り込んでいく織物機械がジェットルームです。最新の電子制御技術を駆使して、1分間に1,000本以上のヨコ糸を織り込みながら、現代の産業界に欠かせない省エネや省人化を両立させました。

流行の衣料素材から産業資材までさまざまな織物を織りこなします。



タオル用エアジェットルームZAX9200Terry

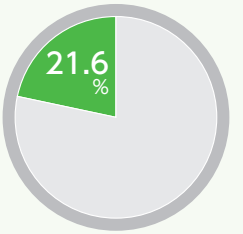
工作機械関連事業

受注高 **9,981** 百万円（前期比29.3%増加）

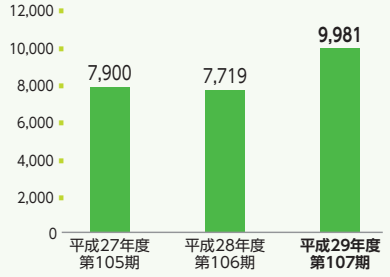
売上高 **8,586** 百万円（前期比11.2%増加）

営業利益 **781** 百万円（前期比34.3%増加）

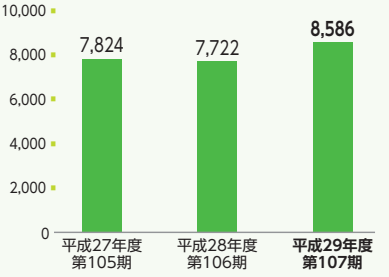
売上高構成比



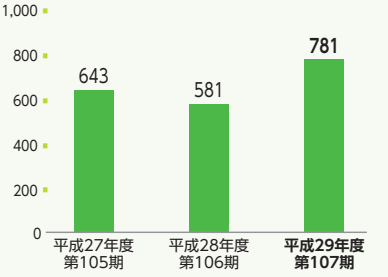
受注高 （単位：百万円）



売上高 （単位：百万円）



営業利益 （単位：百万円）



工作機械関連

NC円テーブル・マシンバイスなど

精密な部品加工に欠かせないNC円テーブルやマシンバイスを開発しています。

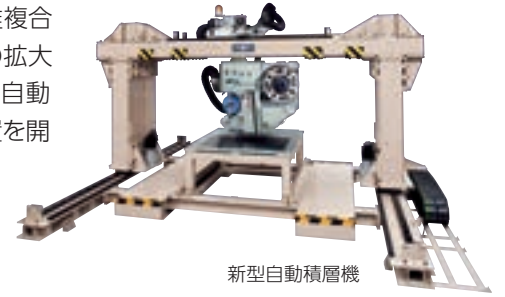
人気のスマートフォンから航空機、宇宙産業まで、さまざまな産業分野でご利用いただける製品ラインアップと高速性、高精度、耐久性が最大の特長です。

ボールドライブ駆動NC傾斜円テーブル

コンポジット機械

炭素繊維複合素材の自動積層機

21世紀の素材革命といわれる炭素繊維複合素材の自動積層機を開発しています。すでに新型航空機の機体の部材生産に使われています。また、自動車など炭素繊維複合素材の利用分野の拡大に先立ち、新しい自動積層機や周辺装置を開発しています。



新型自動積層機

キーワードで知る津田駒

「生誕140年」

2018年は、当社の創業者　津田駒次郎翁の生誕(1878年)から140年。改めて、創業者のモノづくりスピリットに触れてみたいと思います。

津田駒次郎翁

源流

創業者　津田駒次郎翁は、明治11年(1878年)金沢で生まれました。駒次郎翁の祖父幸七氏とその弟の吉之助氏は、現在、観光地としても有名な尾山神社の神門作りに参加した優れた宮大工でした。その吉之助氏の子が、駒次郎翁の織機作りの指導者であり、日本初の絹織物用力織機の開発者　津田米次郎翁です。加賀藩の工芸・文化を支えた優れた宮大工の技術、そして米次郎翁、駒次郎翁など技術の創造・革新に情熱を注いだ若い技術者の存在が、今日の津田駒のモノづくりの源流です。

31歳で津田駒を起業

駒次郎翁は、米次郎翁の織機開発を手伝いながら、単に織物業者の注文に応じて織機を製作するだけでなく、常に改良点はないだろうか、工夫の余地はないだろうかと思いを巡らせていたそうです。いわゆる「機具大工」というレベルにとどまっていたくはなかった。そんな上昇志向が駒次郎翁のエネルギーでした。そして、明治42年(1909年)米次郎翁から独立し、「津田駒次郎工場」を立ち上げます。駒次郎翁31歳の春でした。

現場とともに

若き工場主は、さらなる上を目指して働き詰めの日々を過ごしました。夢の中にも新しい織機への工夫が出てくるのか、夜中に思いついたアイデアを朝の暗いうちから工場に出て、設計図面に書き残していたそうです。そして、現場が大好きで、腰に矩尺を挟み持ち、和服の裾をたくし上げながら、工場のあちこちを一日中見回っていたそうです。

駒次郎翁生誕から140年。力織機はコンピューター化され1分間に2,105本の糸を織り込むようになりました。「トップを目指せ　強い津田駒　新たな挑戦」のスローガンが表すとおり、時代を超えて技術者魂は生き続けています。

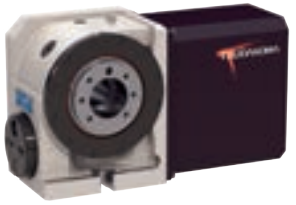
最速エアジェットルーム

ロボットシステムインテグレーション事業を開始

2018年1月から、ロボットを利用した生産自動化システムの設計を、ワンストップで、総合的にご提供するロボットシステムインテグレーション事業（TRI＝Tsudakoma Robotic Integration）を開始しました。

当社の強みは、自社で治具の設計から自動搬送装置や制御装置の開発を行い、ロボットを使って部品を加工していること。モノづくり企業が行うシステム設計（インテグレーション）は、より現場にマッチしたご提案になると考えています。当社では、実際に社内にTRIによる設備を構築して、ジェットルーム部品の生産を行い、お客さまに見学していただいております。

汎用NC円テーブルシリーズを一新



当社の工作機械関連事業の主力製品NC円テーブルの中で、国内のトップシェアをいただく製品がウォーム駆動NC円テーブルです。原動モータの回転を、ツダコマ独自設計のウォームギアシステムによって回転テーブルに伝えるシステムです。

2017年、当社は汎用NC円テーブルの設計に“プラットホーム設計”を導入し、性能をより向上した新シリーズとしてリニューアルしました。モーメント剛性2倍、クランプトルク30％向上など、評価の高い従来機種からさらに性能アップしたラインアップで、機械加工の現場をサポートします。

TAPS活動で効率化推進

2017年からTAPS＝Tsudakoma Advanced Production Systemと命名した生産改善活動に取り組んでいます。それぞれの職場で、一つひとつの作業分析に基づいて、作業時間の短縮とコストダウン、そして確かなモノづくりを進めるための改善を進めています。現場では、定期的に幹部向けの活動報告会を開催し、改善の共有と担当部門のモチベーション向上を図っています。

新たなホームページで情報発信

2017年12月、ホームページを全面リニューアルいたしました。最新のシステムを取り入れて、より必要な情報にアクセスしやすくなりました。スマートフォン用の画面も準備されていつでもどこからでも閲覧しやすくなりました。さらに、当社をよりよく知っていただくために情報も充実しています。これからもいろいろな情報をご提供してまいりますのでよろしくお願いいたします。

連結財務データ

連結貸借対照表 (単位：百万円)

科　目	前　期 平成28年11月30日現在	当　期 平成29年11月30日現在
資　産　の　部		
流動資産	23,791	25,665
固定資産	12,388	12,693
有形固定資産	9,396	9,522
無形固定資産	80	135
投資その他の資産	2,911	3,035
資　産　合　計	36,179	38,358
負　債　の　部		
流動負債	16,888	18,491
固定負債	5,984	5,461
負　債　合　計	22,872	23,953
純　資　産　の　部		
株主資本	12,587	12,770
その他の包括利益累計額	△ 275	550
非支配株主持分	995	1,085
純 資 産 合 計	13,307	14,405
負債純資産合計	36,179	38,358

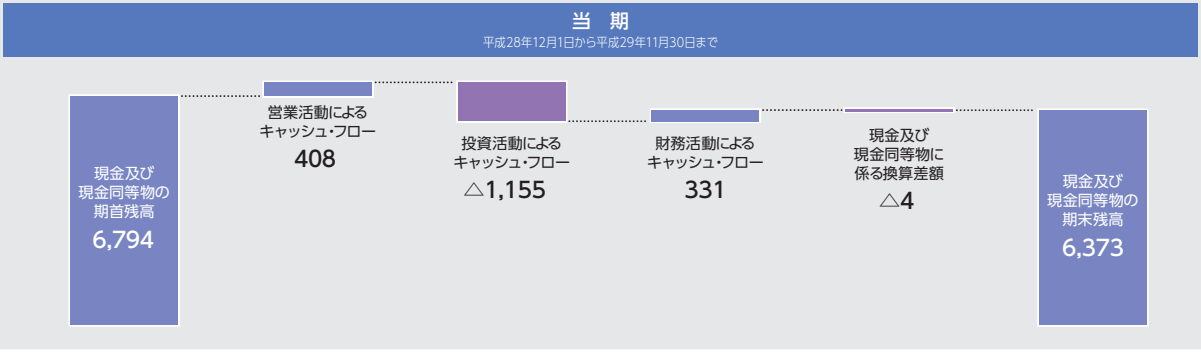
(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書 (単位：百万円)

科　目	前　期 平成27年12月 1日から 平成28年11月30日まで	当　期 平成28年12月 1日から 平成29年11月30日まで
売上高	38,870	39,686
営業利益	728	622
経常利益	584	356
税金等調整前当期純利益	576	342
当期純利益	493	273
親会社株主に帰属する当期純利益	437	183

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位：百万円)



会社概要／株式の概況

会社概要

本社所在地　〒921-8650 石川県金沢市野町5丁目18番18号
設　　立　昭和14年12月30日（創業　明治42年3月）
資 本 金　123億1,654万円
従 業 員　949名

役員の状況（平成30年2月23日現在）

代表取締役会長	菱沼捷二	
代表取締役社長	高納伸宏	工作機械関連事業統括
常務取締役	松任宏幸	管理部門統括、総務部長、輸出管理室長、津田駒機械設備（上海）有限公司　董事長、津田駒機械製造（常熟）有限公司　董事長、TSUDAKOMA SERVICE INDIA PRIVATE LIMITED 代表取締役、ふぁみーゆツダコマ株式会社　代表取締役
取締役	諏訪満	
取締役	山田茂生	繊維機械事業統括、調達部門統括、株式会社T-Tech Japan　代表取締役
取締役	北野浩司	製造部門統括、品質保証部門統括
取締役	坂井一仁	コンポジット機械部門統括、準備機械技術部門統括、準備機械技術部長
取締役	越馬進治	
取締役	潮田資勝	
常勤監査役	橋本徹	
監査役	澁谷進	（澁谷工業株式会社　取締役副会長）
監査役	梶政隆	（カジナイロン株式会社　代表取締役社長）
執行役員	松本勝	工機販売部門担当
執行役員	大森充	工機技術部門担当、新製品推進室担当、工機技術部長、新製品推進室長、ツダコマテクノサポート株式会社　代表取締役
執行役員	浅井俊和	製造第1部長
執行役員	室井哲也	生産技術部長
執行役員	長谷博史	品質保証部長
執行役員	寺田武志	繊維機械販売部長
顧問	竹鼻達夫	
顧問	西野順一	

＊取締役　越馬進治氏及び潮田資勝氏は社外取締役です。
＊監査役　澁谷　進氏及び梶　政隆氏は社外監査役です。

株式の概況（平成29年11月30日現在）

株式の状況

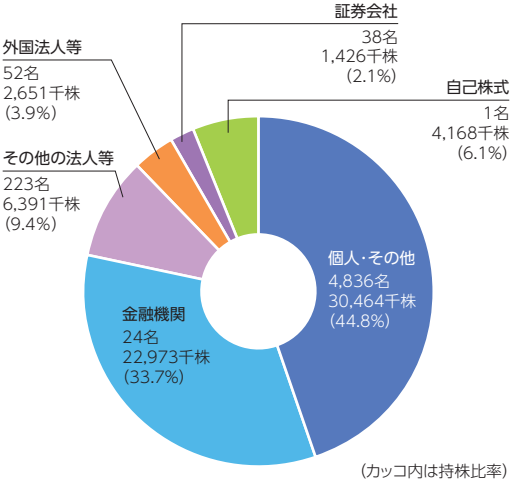
①発行可能株式総数	199,003,000株
②発行済株式の総数	68,075,552株
（内自己株式の数）	（4,168,543株）
③単元株式数	1,000株
④株主数	5,174名

大株主の状況

株主名	持株数（千株）
津田駒取引先持株会	9,661
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	6,659
明治安田生命保険相互会社	3,509
株式会社北陸銀行	2,580
株式会社北國銀行	2,320
ツダコマ従業員持株会	1,825
三井住友海上火災保険株式会社	1,785
東京海上日動火災保険株式会社	1,775
丸紅株式会社	1,023
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口5）	883

（注）当社の保有する自己株式4,168千株は上記表には含んでおりません。

株式の分布状況



（カッコ内は持株比率）

DREAM NAVIGATOR
SINCE 1909
TSUDAKOMA

株主メモ

事業年度	毎年12月1日から翌年11月30日まで
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年11月30日 中間配当 毎年5月31日
定時株主総会	毎年2月
公告方法	当社ホームページ上に掲載
上場証券取引所	東京証券取引所（第1部）
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168－0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
（電話照会先）	TEL 0120－782－031（フリーダイヤル） 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の全国各支店で行っております。

ホームページのご案内
https://www.tsudakoma.co.jp/

単元株式数の変更と株式併合について

当社は2018年6月1日をもって株式売買等の利便性の向上を目的として、単元株式数を1,000株から100株に変更することといたしました。あわせて、適切な投資単位水準への調整を目的として、当社株式について10株を1株とする株式併合を行うことといたしました。なお、この併合に伴う株主様による特段のお手続きの必要はございません。